

美味しいと言われる只見の米を食味分析で数値化

「只見産米・食味向上研究会」が研究結果を報告

7月5日、町内の中小規模農家7名でつくる「只見産米・食味向上研究会(以下、研究会)」の馬場新介会長など4名が役場を訪れ、これまで3年間取り組んできた米の食味向上研究の結果報告書を菅家町長へ提出しました。

この研究会は、国が示してきた米の生産調整が終了することを受け、



▲町長に報告した皆さん(左から馬場正一さん、矢沢達也副会長、菅家町長、馬場新介会長、鈴木忠さん、橋本副町長)

米価下落を心配する農家の耕作意欲増進と米価下落対策を目的に町内の農家などが設立したもので、美味いと評判の只見の米の根拠を調べ、食味向上のための研究を行いました。

研究では、営農方法や他地域との気象条件の比較、町内の農業用水のミネラル検査などを実施し、さらには米の美味さの基準には個人差があるため、食味分析計による食味値をもって効果の確認を行いました。初年度、会員の平均食味値は良質米基準とされる80点であったのに対し、最終年(3年目)には平均食味値が極上米基準とされる85点以上で、最高点の88点が4農家となりました。蒲生地区(標高360m)から坂田地域(標高480m)までを7地域で研究栽培した結果、蒲生・坂田地域でも極上米の数値が示されました。

研究結果の報告で、馬場新介会長は「農家の生き残りを考え只見のブランドに取り組みました」と菅家町長に話しました。

今回の報告書は町内の方限定で提供するとしており、必要な方は農林建設課農林係(82-5230)までお問合せください。

JR只見線復旧費の地元負担軽減

鉄道軌道整備法改正で報告会

7月21日、只見線の復旧及び復興を支援する会が主催する改正鉄道軌道整備法の報告会がJR只見駅前で開催されました。

これは、6月15日の参院本会議で可決成立となった改正法について地域住民などに報告するもので、赤字ローカル線の災害復旧等を支援する議員連盟会長の佐藤信秋衆院議員や同連盟事務局長の菅家一郎衆院議員、根本匠衆院議員などが参加しました。

報告会では、菅家氏が「今後は只見線をどう活かすかが重要」と話し、同支援をする会の目黒彰一会長や菅家町長がお礼の言葉を述べました。



▲会場に集まった約200名を前に改正法について説明する菅家一郎衆院議員

安全運転を呼びかける

交通安全テント村を実施

7月23、24日の2日間、町内を走行する車やバイクなどのドライバーに安全運転を呼びかける「交通安全テント村」が3地区で行われ、各地区の交通安全団や交通安全母の会、交通安全協会などが参加しました。これは、夏の交通事故防止県民総ぐるみ運動の一環で行われているもので、只見地区は只見ガスセンター前、朝日地区は広域消防署前、明和地区はスノーシューション付近で実施しました。

各会場では、交通安全団がドライバーの方にチラシや折り鶴がついた手作りのキーホルダーを手渡し、安全運転を呼びかけていました。



▲(写真/只見地区)安全運転を呼びかける交通安全団の皆さん

「地域合同防災訓練」を開催

自助・共助・公助の意識を高める



▲AEDの説明を受ける只見中の生徒(当日は星総合病院・ボラリス看護学院の生徒も参加した防災訓練)

7月4日、朝日小と只見中が主催の「地域合同防災訓練」が行われ、同学校や地域住民など256名が参加しました。この訓練は、平成23年7月の新潟・福島豪雨災害を教訓に大雨を想定して行われているもので、今年で開催3年目となります。訓練では、只見中への避難放送を受けた参加者が自宅や朝日小から一斉に非難し、中学生在避難所への誘導を行いました。避難後は広域消防署只見出張所や駐在所、町赤十字奉仕団などの協力のもと、炊き出し訓練や救急処置訓練など5つの体験を行い、参加者は防災意識を高めていました。

JR只見線や町の魅力を語る

六角精児さんが只見中学校訪問



▲最後に自身が作詞・作曲された「只見線のうた」を生徒などと一緒に熱唱する六角さん

7月10日、鉄道ファンとして知られる俳優の六角精児さんが只見中学校を訪れ、復旧中のJR只見線や町の魅力などについて講演しました。講演の前に横山泰久校長が「六角さんは只見線や只見町が大好きです。皆さんも六角さんの話を聞いて只見愛を感じてください」と話しました。生徒や住民など約100名を前に六角さんは、JR只見線の車窓の美しさや只見町を毎年訪れていることなどを紹介され、「只見線の魅力は集約された自然美。只見から社会に立つ君たちは幸せ」と只見愛について語りかけていました。

社会を明るくする運動住民集会

犯罪や非行のない地域を目指す



▲振り込め詐欺の被害を防ぐためには地域の方々の力が必要と話す玉川係長

7月13日、犯罪や非行の防止と犯罪をした人たちの更生について理解を深める「第68回社会を明るくする運動住民集会」が季の郷湯里で開かれ、保護司や教育関係者など約60名が参加しました。これは、年一回南会津郡内持ち回りで開催するもので、今回は只見町を会場に開催されました。集会では、営家町長と大山義幸南会津地区保護司会長が「安全・安心な地域づくりのため皆さまのご協力をお願いします」とあいさつし、記念講演では南会津警察署生活安全係の玉川勝秋係長が振り込め詐欺の被害状況や手口などを紹介しました。

「いじめ問題対策連絡協議会」開催

いじめ防止を考える



▲いじめ防止のために意見を出し合う委員の皆さん

7月19日、只見町いじめ問題対策連絡協議会が只見振興センターで開催されました。この会議は、いじめ防止対策推進法に基づき設置されるもので、学校関係者など11名の委員で構成されています。会議では、町や各学校のいじめ防止基本方針について確認し、いじめ防止のために大切なことは、学校と保護者の情報の共有、子どもの発達段階に応じて相手の気持ちを考える力や人間関係を調整する力を育成することなどの意見が出されました。各学校や関係機関と連携・協力し、いじめ防止に努めていくことが確認されました。